

石原孝哉，序， p. 1

はじめに， pp. 13-14

I シェイクスピア研究編， pp. 15-422

1 単行本

2 雑誌

i 『英語青年』

ii 『英文学研究』

iii *Shakespeare Studies*

iv *Shakespeare Worldwide*

v 『シェイクスピアリアーナ』

vi *the Globe*

II シェイクスピア・テキスト訳注編， pp. 423-431

III シェイクスピア物語・小説・翻案編， pp. 433-456

1 シェイクスピア物語（ラムを中心に）

2 志賀直哉・太宰治・大岡昇平・小林秀雄

3 黒沢明（『蜘蛛巣城』と『乱』，資料を含めて）

4 その他

IV シェイクスピア物語・小説・訳注編， pp. 457-468

V シェイクスピア翻訳編， pp. 469-577

\* 各作品について

VI シェイクスピア劇上演年表編， pp. 579-653

VII NHKのシェイクスピア（放送記録）編， pp. 655-662

1 シェイクスピア劇場

2 芸術劇場

3 その他

\* I～V，VIIは佐々木隆、VIは広川治。

## 概要

本書は『日本のシェイクスピア』の改訂新版で内容を刷新したものである。単に研究書等の書名を紹介するだけでなく、現物の確認の結果として目次とページ数も明示した。また、必要に応じて短評を加えた。学術雑誌では『英語青年』『英文学研究』からシェイクスピアに関する論文を取り上げ、『SHAKESPEARE STUDIES』、『SHAKESPEARE WORLDWIDE』、『シェイクスピアリアーナ』『the Globe』については目次とページ数を明示した。

「NHKのシェイクスピア(放送記録)編」は、これまでの書誌とは異なり、書籍だけでなく、映像も資料として加えた。放送記録からBBCシェイクスピアだけではなく、シェイクスピア映画、舞台録画などの放送記録をまとめたものである。(A5)

社会的評価としては次のような経緯がある。なお、本書の出版により『日本経済新聞』（平成2年5月9日）の文化面にて本書の出版経緯について文章を寄稿した。さらに、『産経新聞』（平成2年5月25日）、『図書新聞』（平成2年7月21日）で書評。『英語青年』（平成2年8月1日）の「編集後記」でも紹介された。本書は高橋康也他編『研究社シェイクスピア辞典』（研究社、平成12年11月）の「文献解題」の「X.日本におけるシェイクスピア受容」の2)にランクされ、書誌情報の重要性を認められた。また、松岡和

子訳のちくま文庫『シェイクスピア全集』（筑摩書房）の上演年表では参考資料として冒頭に取り上げられている。

「KURITA カンパニー・リ्यूとぴあ公演『テンペスト』を観る方、観た方」（県立新潟女子短期大学図書館所蔵の関連資料、平成19年7月）として、「学習院大学図書館資料探し」のツールリスト（特定主題を探す）の「個人書誌」の項目で取り上げられる。（インターネットで公開）／佐野昭子「日本における『ロミオとジュリエット』」（『帝京大学文学部紀要—米英言語文化』第37号、平成18年度）で引用される。